

命の綱は「近所ちゃん

7月25日の朝6時過ぎ、「みしまや楽山店」駐車場に、三々五々人々が集まってきました。眠そうな子供たちに交じって、お年寄りやオバチャンなど実に多彩な顔触れがそろいました。その数ざっと60人。6時半になると市成地区あげてのラジオ体操が始まりました。

夏休み恒例の子供会ラジオ体操に、まずは市成寿会高齢者クラブが「オラやつもー」と声を上げ、さらに町内会が参加を呼びかけました。

市成地区はこの半世紀膨張を続け、集まった人々の中には、見知らぬ人もたくさん交じっています。清々しい空気の中で「あの子はどこの子かいな?」「あの髪やんは誰?」などと思いを巡らしながら、体を動かします。そして体操が終わると、喜々としてカー

ドにハンコをもらい、同じ方向の人と連れ立って帰ってきます。世代を超えた自然な交流が生まれつつあります。

西日本を襲った豪雨により、二百人を超す尊い命が失われました。一方で、ご近所の人に避難を勧められ、助かったとの報道も目につきました。災害時には「共助」が大切と言われますが、ご近所のさりげない日常の交流と、その積み重ねがベースになります。地域ぐるみのラジオ体操。素敵な試みです。